

東通原子力発電所敷地内の地質調査の概要

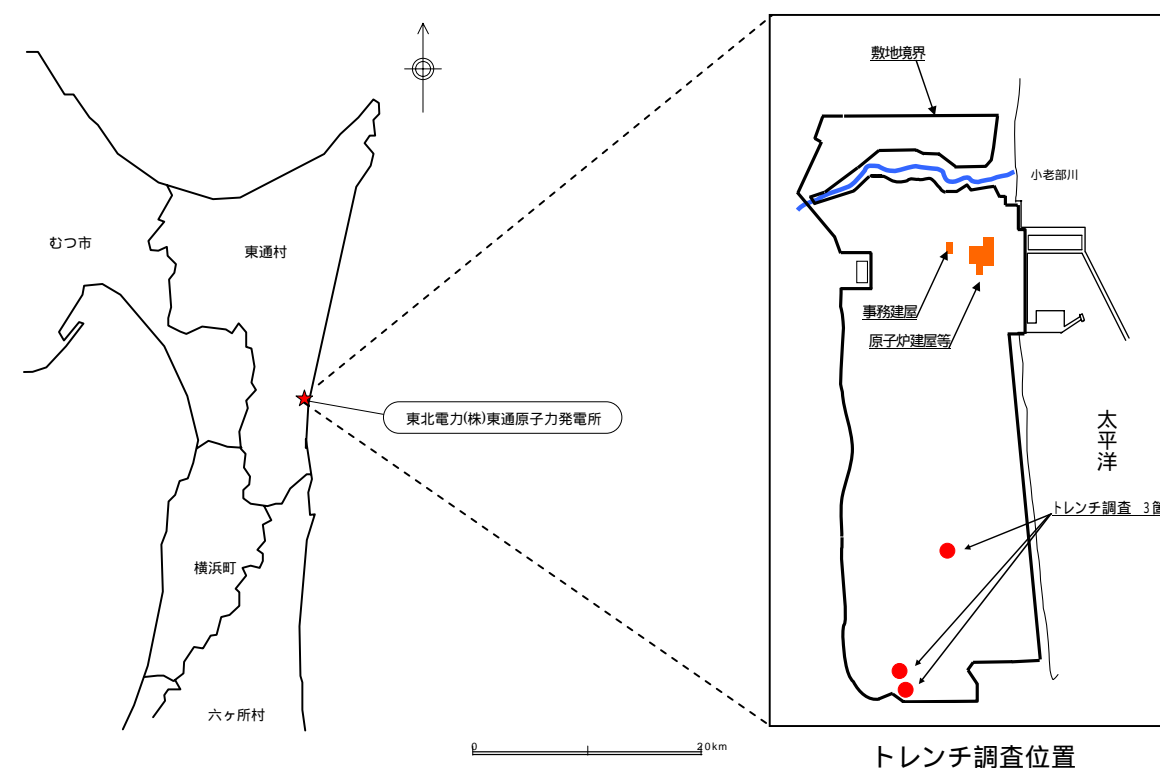
平成 22 年 7 月 28 日
東北電力株式会社

1. 調査目的

当社は、平成 20 年 3 月 28 日に「発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針」の改訂に伴う東通原子力発電所の耐震安全性評価の中間報告を原子力安全・保安院に報告している。

この中間報告については、現在、国の審議が継続的に行われているところであるが、平成 22 年 5 月の審議等において、敷地周辺の断層およびリニアメント（空中写真等で地表に認められる直線的な地形）と敷地内の断層との関係や敷地内の断層を覆う第四系（約 180 万年前以降に堆積した地層）の小規模なずれや撓み等に関連して、敷地内の断層の活動性に関する議論もなされた。

当社は、敷地内の断層を覆う小規模な地層のずれや撓み等は断層の活動によるものではなく、敷地内の断層が耐震設計上考慮する必要がある活断層ではないと評価しているが、審議の中で敷地内の断層の活動性について議論がなされた状況を踏まえ、更なる地質データの拡充を図り、これまでの評価の説明性を向上させるため、下記の地質調査を行うものである。



2. 調査概要

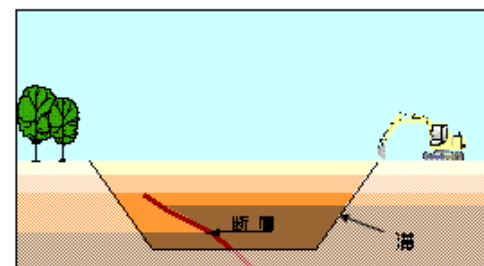
調査の内容は以下のとおり。

調査位置	東通原子力発電所敷地内
調査時期	平成 22 年 7 月～平成 22 年 10 月（予定）
調査目的	敷地内の断層を覆う第四系に見られる変状の状況等を確認する
調査内容	トレンチ調査（3箇所程度） ボーリング調査（必要に応じて実施）

調査項目	数量	7月	8月	9月	10月
トレンチ調査	3箇所		■		
試料分析			■		
ボーリング調査	（必要に応じて）		■		
調査結果とりまとめ	-			■	

< トレンチ調査 >

断層を横切るように溝を掘り、溝の壁面に現れた断層部と断層周辺の地質を観察し、断層の過去の活動履歴を調査する。



< ボーリング調査 >

地盤を構成する岩石などを棒状のコアとして連続的に採取し、これを観察して地質の状況を調査する。これを複数箇所で行うことにより、地層の分布状況（連続分布など）を把握する。

